

教育民生常任委員会報告書

議 長	事務局長	次 長	書 記
			

会 議 日 時	令和4年7月22日（金） 午後1時30分 ～ 午後4時			
会 議 場 所	○議員控室 ○委員会室 ○議会図書室 ◯その他（東庁舎2階町民活動支援室）			
出 席 者 数	委員 5名のうち出席者 5名			
出 席 委 員	委 員 長	古谷 幹夫	委 員	田邊 哲夫
	副委員長	武田 秀義		
欠 席 委 員	委 員	堀本 伸一	委 員	水間 淳一
説 明 者	教育委員会	教育長 山脇光明	教育研究所	SSW 齋藤マサ
		教育次長 浜田章克		政策監 大元 学
	学校教育課	課 長 岡 英祐	文化的施設 整備推進室	室 長 大河原信子
		副課長 東 孝典		次 長 西尾洋亮
	教育研究所	所 長 野村泰子		
傍 聴 者		な し		
付 議 事 件	1. 教育研究所の現状と課題について（不登校への対応を中心に）			
	2. 文化的施設について 3. その他			
審 査 ・ 調 査	1. 教育研究所の現状と課題について（不登校への対応を中心に）			
	岡学校教育課長より不登校となる原因について、			
	○学力不振・発達特性・家庭の問題・学校や教師との関係に基づくもの等々と多			
	種多様である。			
	○その対応には教育相談員、SSW、支援センター指導員を中心に連携して対応し			
	ていること。			
	○対応の成果として			
	・SC(スクールカウンセラー)が教育支援センター配置となり、通室生の保護者			
	とつながることができた。			
	・SSW(スクールソーシャルワーカー)が保育所、学校の支援会に行くことよっ			
	て、特性のある児童や生徒が支援センターや学校に通うことができるように			
	なった事例も生まれたこと。			
	・相談員やSSWが入ることで、ひきこもりまでには至らないケースもある。			
	・支援センター指導員の進路指導により目指す高校を見つけ、学習に取り組む			
	生徒も生まれた。			

	○課題としては
	・個々に応じた対応ができないまま不登校傾向が続く子がいること。
	・学校、家庭、SSW や相談員とのスムーズな連携。
	・SC、SSW の上手な活用への理解不足。
	・進路の保障。
	・発達障害の理解不足から関係機関（医療など）へのつながりが困難である。
	などの説明を受け現状の共通認識を得た。
	その後、野村所長より不登校に対する現状と課題について説明を受けた。その主だった内容は、
	○ここ数年長期欠席(30 日以上)の生徒は小学校、中学校とも増加傾向にある。
	○教育委員会との連携としては、
	・業務報告会
	・教育相談、就学指導委員会
	・SSW 活用事業(教育対策監)等を実施
	○学校との連携では
	・個別支援会、情報共有を行い、医療や教育相談へとつなげていく（医療の紹介、通室・別室での対応、支援学級設置の有無等）
	○教育支援センターについては、
	・不登校が長く続いている生徒について社会的自立を目指して対応
	・現在、かげつ（窪川地区）、たのの（大正地区）、とおわ（十和地区）の3か所で、指導員5人で対応
	○SSW が実際に対応して感じること・課題として（特に不登校のうち発達特性障害により、教育的配慮が必要な児童・生徒に関して）
	・保護者の受け入れが難しく、専門機関につなげられないこと
	・問題があっても学校や家庭から相談がなく、つなげられないこと
	・進路面では、特別支援学校への入学や通学が難しい。特別支援学級の入級についても基準が高く難しい
	○その他専門機関との連携も課題
	以上の説明を受けた後、意見交換を行った。その結果として、
	○不登校の要因は多様性を持っており、どう働きかけていくかが課題
	○保育所～小学校～中学校～高校間における連携したつながりが弱い
	○チームでの対応として、「引き継ぎシート」の活用が重要
	○不登校を経験～克服した人の生の声を聞いてもらうことも重要

	○保育園の時から対応が重要		
	○切れ目のない支援が必要		
	○特別支援学校への入学や通学における交通手段の確保支援が求められる。		
	○不登校の課題に対しては個別対応が必要で、そのための人材確保が求められる等を共通認識とした。		
	2. 文化的施設について		
	大元政策監より		
	・7月15日開催の町立図書館でのイベントは延べ101人の参加があった		
	・7月19日には学校教育課主催で窪川中学生による子ども議会が開催された		
	・現在施設のパース図を作成中で、8月常任委員会で示す予定		
	・事業費の件に関しては精査中で9月中には完了予定		
	・木造化を求める陳情が6月7日付けで町と議会に提出されている		
	・施設の木質化は可能な限り検討したいが1億円近い金額が必要		
	以上の報告を受けた。		
	3. その他		
	・視察研修については情報を探っている現状を報告		
	(午後4時閉会)		
反対意見			
報告日	令和4年9月6日(火)	委員長署名	古谷幹夫